



令和 8 年度 理科実践・研究計画

部 員 ○永須千尋 柴田省吾

I 理科における 自律した学習者の姿

- 1 一人一人が自分たちの問いを探究していく意欲を高め、知識を体験と結び付けて捉えようとする姿
- 2 活動の中で新たな問いや仮説をもちもって活動を進めていきたいという意欲を高める姿
- 3 自分の考えをより科学的に妥当なものへと変容させていく姿

II 理科における 授業デザインの取組

- A 知識と体験（日常生活、導入での試行活動）が関連するような学習問題の設定
- B 体験したことを基に予想したり考察したりする場の設定
- C 実験や観察、ものづくりの中で実感を伴って理解できる仕組作り
- D より科学的に妥当な考えになるように、考えを取捨選択し、試行錯誤を繰り返すことができる場の設定

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	知識を体験（日常生活や既習事項、導入での試行活動）と結び付けて捉え、学習問題を自分事として見いだした姿（1）	一人一人が問題を見いだすとともに活動への見通しをもつことができるように、導入で試行活動を行い、共通の体験を通して、気付いたことや疑問をその場で伝えたいときに友達と共有するように働きかけたこと（A、B、D）
	友達との関わりを通して友達の考えの中から、よりよい考えを求め取捨選択し、試行錯誤を繰り返した姿（2、3）	必要に応じて友達と関わり、自分の考えと友達の考えを比較する場を設定したこと 自分と考えが似ている人同士でグループを組むという意図をもったグルーピングをしたこと（C、D）
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	友達との関わることでよりよい考えに出合うことはできたが、グループでの活動を通して自分の考えがどう変わったのかという個の変容を自覚できなかった姿（2、3）	個の変容を自覚することができるように、他者と考えを比較する場を設定する。 自分が見いだした問題を解決するまで個で試行錯誤しながら学び進める場を設定する。 子どもの学び方に応じて、予想や実験方法が似ている人同士、違う人同士とグルーピングの仕方を選択する。